



酷暑

残暑お見舞い申し上げます。今年の夏は大変暑く、私も熱中症対策に帽子を被り、夏山の紫外線カットの長袖を着て、首には扇風機を着けて往診をしていました。職員が私の後ろ姿を撮ってくれた写真では、まるで野球の監督を彷彿させる格



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所 まつばら
ホームクリニック 院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

好なっていました。しかし、これほど対策をしていても、冷房が苦手なご年配の方のお部屋に入ると目の前がクラクラするくらいの暑さに見舞われることがあります。冷房を入れないため、患者さん自身、ぐったりと寝込み、食欲がない状態に陥っています。ひどいケースでは、脱水症になっ

が不足して尿が出ない方、脱水症を押しつけて動いたために胸が痛くなり、急性心筋梗塞を発症をした方など、全患者さんのうち1割ほどが、点滴治療や集中治療を必要とし

るようになっています。例年にならない、当院のスタッフ全員がフル稼働している状況でした。我々の役割はもちろん疾患に対して加療をすることなのですが、こういった災害的な暑さの時に、持続可能な在宅療養を可能にするための生活指導や支援も求められていると思っております。

よって呼吸不全になっていく方、腎臓に行く血流が不足して尿が出ない方、脱水症を押しつけて動いたために胸が痛くなり、急性心筋梗塞を発症をした方など、患者さんや家族と介護サービスを速やかにつないでいくことが重要です。

在宅医療は、基本は全疾患が対象です。介護と医療の連携を理解しながら、どんな状況でも可能な限り在宅療養で過ごすことが出来るようにすることが使命です。

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応：午前9:00～午後6:00
 ■定休日：土日(祝日は診療)
 ■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部



↑ 診療相談はこちらから

まつばらホームクリニック

代表的なところではエアコンなどでの室温管理の徹底がありますが、そのほか、動けなくなった方々に生活の援助を行え